

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/3)

学部・学科	臨床心理学部・臨床心理学科	職名	講師	氏名	田中 史子
学歴	平成 8年 3月 大阪大学文学部史学科考古学専攻 卒業 平成15年 3月 京都大学教育学部教育心理学系(編入学) 卒業 平成17年 3月 京都大学大学院教育学研究科臨床教育学専攻修士課程 修了 平成21年 3月 京都大学大学院教育学研究科臨床教育学専攻博士後期課程 修了				
学位	平成17年 3月 教育学修士(京都大学) 平成21年 3月 教育学博士(京都大学 教博第129号)				
専門分野	心理学				
専門資格	臨床心理士(15088号)				
所属学会	平成15年 7月 日本心理臨床学会 平成17年 4月 日本臨床心理士会 京都府臨床心理士会 平成20年 3月 日本箱庭療法学会 平成26年 5月 日本ユング心理学会 平成26年 6月 糖尿病医療学研究会				
受賞					
担当授業科目	学 部 心理学実験査定(初級) ・ 、心理学実験査定(中級) A-1・A-2・B-1・B-2、初年次演習、臨床心理学実践演習(カウンセリング4)、コミュニケーションスキル演習、臨床観察実習				
論文指導	論文指導担当[主査](卒論:該当なし) 論文審査担当[副査](卒論: 8名)				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	初年次演習	講義・演習・実習・実験	春・秋	約20名	
	授業の概要: 高校までの「教えられる」勉強とは違い、大学では「自ら学ぶ」姿勢が必要になる。しかし、大学に入った段階では、自分が何を学ばよいか、どうやって学ばよいか分からないというのが実際であろう。そこで、高校までの勉強と大学の学習との間に「橋」を架けるのが、この授業である。具体的には、授業の前半では、大学で学ぶための基本的な学習スキルを、講義や実習を通して学ぶ。授業の後半では、受講生自身が興味・関心のある身近なテーマについて、臨床心理学的観点から学習し、考えをまとめて発表する。そして、他の受講生の発表を聴き、ディスカッションすることを通じて、臨床心理学への理解を深める。				
	教育活動の振り返り 教育活動の成果: 大学に所属するという感覚を学生に持ってもらえたのではないかと考えている。また、自分から臨床心理学を積極的に学ぶための手段を少しは身につけることができたと思われる。 今後の課題: 学ぶ姿勢をどのよういかたちづくっていくか、さらなる工夫が必要であると思われる。				
・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 平成26年10月30日 学内 第1回FD講演会「京都文教大学の初年次教育を考える」に参加。 平成27年 3月 5日 学内 第2回FD講演会「授業と評価をつなぐ為に ~ループリック評価入門~」に参加。					
・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 1年生ゼミ(コミュニケーションスキル演習)で担当している学生との面談・相談					

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/3)

H26 年度 研究課題	<p>1. 曖昧さ・矛盾・荒唐無稽さを含んだ物語 2. 白昼夢 3. 物語創作過程におけるびったり感</p>
年度の研究活動の概要	<p>今年度は、2011年に京都大学大学院教育学研究科に提出した博士論文「《物語》についての臨床心理学的研究」を中心に、これまで執筆した論文をまとめ直し、2015年度の出版に向けて、日本学術振興会の科学研究費助成事業の「学術図書」助成への申請をおこなった。</p> <p>また、日本ユング心理学会・糖尿病医療学研究会などに新たに加入した。それらの学会・研修会などに参加することによって、より広い知見を得ることができたのではないかと考えている。</p>
平成二六(2014)年度の主な研究成果等	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <p>平成26年6月21日・22日 日本ユング心理学会第3回大会に参加(於:文京学院大学)</p> <p>平成26年10月4日・5日 日本箱庭療法学会第28回大会に参加(於:東洋英和女学院大学)</p> <p>平成26年10月11日 第1回糖尿病医療学研究会に参加(於:橿原市立かしはら万葉ホール)</p> <p>平成27年 2月28日・3月1日 島根大学との合同研究会「心理療法におけるセラピストの発話に関する研究集会」に参加(於:島根大学)</p> <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>翻訳:</p> <p>1. 「第4章 子どもたちとは」「第5章 子ども中心プレイセラピー」、共訳(当該章担当)平成26年7月、日本評論社、ゲリー・L・ランドレス著『新版・プレイセラピー 関係性の営み』pp37-76, 380p)</p> <p>その他:</p> <p>2. 「2013年度第2回日本箱庭療法学会研修会印象記」、単著、平成26年12月、日本箱庭療法学会箱庭療法学研究Vol.27(2014) 2(pp.119-120)</p> <p>(調査活動)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>(学内活動)</p> <p>教務委員会委員、臨床心理学部研究報告編集委員会委員、心理臨床センターの兼任カウンセラー</p>
社会における活動	<p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成26年12月 大阪府立枚方津田高等学校 模擬授業「身近にある臨床心理学」、於:同校</p> <p>(その他)</p> <p>・ 京都府臨床心理士会理事(事務局長補佐)「平24.5より」</p>
平成二一(2009)～二五(2013)年度の主な研究成果等	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <p>1. 「糖尿病者が生きることの心理臨床的理解の試み 箱庭・描画に表現された“物語”を通して」、単著、平成23年5月、誠信書房、日本箱庭療法学会箱庭療法学研究24-1(pp.83-97)</p> <p>2. 学位論文「《物語》についての臨床心理学的研究」、単著、平成24年5月、京都大学大学院教育学研究科に提出(218p)</p> <p>3. 「矛盾、曖昧さ、荒唐無稽さを含んだ物語について Lévy-Bruhlの『原始神話学』と臨床心理学的視点」、単著、平成26年3月、京都文教大学臨床心理学部研究報告第6集(pp.103-116)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>翻訳:</p> <p>1. 「第14章 プレスクリプティブ・プレイ・セラピー」、共訳、平成23年8月、創元社、チャールズ・E・シェーファー編著『プレイセラピー 14の基本アプローチ おさえておくべき理論から臨床の実践まで』(pp.271-281, 326p)</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/3)

主な研究成果等 平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の	(調査活動) (学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)
	(学内活動) 平成24年 4月 心理臨床センターの兼任カウンセラー「現在に至る」 オープンキャンパス委員「平26.3まで」 平成25年 4月 臨床心理学部研究報告編集委員会委員「現在に至る」
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の 社会における活動	(小中高との連携授業の講師) 平成25年 6月 滋賀県立草津高等学校 模擬授業心理学分野 平成25年10月 京都府立京都八幡高等学校 産経新聞高校内進学相談会
	(その他) 平成20年 6月 社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院 非常勤臨床心理士(平成21年4月より常勤)「平24.3まで」 平成22年11月 花園大学病院実習指導、対象：同大学大学院生(臨床心理学) 平成24年 5月 京都府臨床心理士会理事(事務局長補佐)「現在に至る」